

第18回単位PTA会長会… 2～3  
 PTAかわら版…………… 4～5  
 第71回日本PTA全国研究大会  
 広島大会に参加して…………… 6  
 第73回宮城県PTA研究大会  
 東松島大会に向けて…………… 6

## 養蚕体験

南三陸町立戸倉小学校では、毎年4年生が保護者とともに、地域の方々に教えていただきながら1年間を通して戸倉地区で昔から行われていた養蚕体験学習を行っています。

卵からふ化した蚕に、学校の桑畑で取った桑の葉を食べさせます。休みの日も交代で餌やりや掃除をし、育った蚕は繭を作ります。その繭を使って交通安全のマスコットを作り、ドライバーさんに配ったり、卒業する6年生や入学する新1年生にコサージュを作ってプレゼントをしています。

通信員 星 岳大



# 第18回 単位PTA会長会

令和5年7月9日(日)

去る令和5年7月9日(日)利府町にある利府町文化交流センターにおいて「第18回単位PTA会長会」が開催され、県内各地のPTA会長が一堂に会しました。

利府町文化交流センター

## 研修 I

研修 I では「各地区だより」として、岩沼地区より熊谷俊彦前理事、加美地区からは石川俊一前理事、そして気仙沼地区からは鮎貝宗房前理事がコロナ禍における地区ごとの活動報告をされました。各地区それぞれの地域の特色を活かした多くの活動報告を中心に、報告方法も様々でスライドを作成し地域のPRをしながら報告をされるなど、報告者の想いを伺うことができ、最後まで楽しく拝聴することができました。

発表者3名から令和4年度に所属していたそれぞれの小中学校でのPTA活動を通しての想いを熱くお話ししていただきました。時代の変化と共にPTA活動の在り方も少しずつ変化が起こっていることや、コロナ禍でどのようにして保護者と子どもたちが手を取り合って活動していくかなど、本当に多くの努力を日々

重ねている様子を垣間見ることができました。

また、5月より新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられたことにより、懇親会が再開され、以前よりも少しずつではありますが賑わいも戻りつつあるというお話もありました。

変化の大きい今、保護者の協力だけでなく、地域と学校と共に教育活動に取り組む「コミュニティスクール」が始まりつつあります。地域の文化や価値観を活かしながら、PTA活動を行うことを考えさせられる非常に有意義な報告会となり、私自身もたくさんの学びを得ることができました。

調査広報委員 浅沼 賢史



あいさつをする浅野直美会長



岩沼市前理事  
熊谷 俊彦 氏



加美郡前理事  
石川 俊一 氏



気仙沼市前理事  
鮎貝 宗房 氏

## 研修Ⅱ

# 「コミュニティスクールの可能性」

## ～子どもとみんなの福祉を考える～



講師 社会福祉法人ライフの学校  
代表 田中 伸弥 氏

研修Ⅱでは『コミュニティスクールの可能性』～子どもとみんなの福祉を考える～と題し、社会福祉法人ライフの学校代表田中伸弥氏にご講演いただきました。

田中氏のご自身の経験から日々のケアの中には「いのち」や「暮らし」、「生きる」についてのたくさんの学びがあることに着目して起業に至ったそうです。そして、この学びをたくさんの人と分かち合いたいとの思いから福祉施設を地域にひらき、学びの拠点とする様々な活動をなされています。

その中で、ご高齢者が集まる社会福祉施設を「地域にひらかれた学びの場」とすることを掲げ、地域の子どもたちがその施設に訪れ毎日開催しているプログラムに参加しています。地域で生まれ育ったおじいちゃん、おばあちゃんたちと子どもたちが触れ合うことでそれぞれの「生きる」を大切にすることもかもしれません。

「ライフの先生」としてプログラムに参加するご高齢者の方々は、地域の人たちとリアルに関わることで刺激を受け、「生きがい」を感じ、人生の最後まで笑顔でいられるかもしれません。さらには、「いのち」に触れること、それは「生きる」ことを学ぶこと。すなわち、子ども、障がいを持っている方、ご高齢者、地域の人たち、みんなが支え合って学び

合うことで様々な問いが交差する場となり、一人ひとりの人生が豊かになるような社会をつくっていきたくと熱く語られました。

具体的なその活動のひとつに、近隣の学校のお父さんたちで編成されているおやじの会の協力により、福祉施設内に子どもたちが喜ぶような駄菓子屋「かみふうせん」を運営されています。日々、人生の先輩であるご高齢の方や障がいがある方との対話から「いのち」や「生きる」ことの大切さを地元の子どもたちが感じ取れるようなきっかけづくりをすることで、地域と学校がつながる一役を担っていると感じました。

すでに先行してコミュニティスクールを進めている学校もあるかと思いますが、今回の講演を通してこれから地域と学校、そして保護者の代表となる私たちPTAがこれまで以上に連携を図り、子どもたちが健やかに育っていける環境づくりの必要性を考えることのできた研修となりました。

大変お忙しい中、ご講演いただいた田中伸弥様と準備や設営など担当していただきました役員の皆様にご心から感謝を申し上げます。

多賀城小学校 会長 星山 純一郎

# かわら板



## 巨理郡

### 夏祭りに模擬店参加

通信員 小野 勝洋

受けて、お客の子どもたちを丁寧な接客で楽しませてくれました。  
 コロナの影響で文化祭が開催されない中、お祭りの雰囲気や他の人に楽しんでもらうことを味わえたのは、彼らのひと夏の良い思い出になったことでしょう。

巨理町立逢隈中学校校父教師会は、令和5年8月6日に開催された「おおくま地区夏祭り」に参加し、逢隈小学校校父教師会と合同で射的、くじ引き、かき氷の出店をしました。  
 本部役員が少ないため、生徒に声掛けをした結果、11名が協力してくれました。彼らは射的ブースの運営を一手に引き

## 柴田郡

### 川崎中学校の活動紹介

通信員 谷末 泰弘

川崎町立川崎中学校では「広報誌PTAだより」に力を入れています  
 年2回発行で前半は先生・役員紹介で写真と自己紹介、裏は部活紹介を掲載、後半は川中祭を中心に記事を掲載しています。  
 広報誌の目的は先生と親の距離を縮めることと、これまで継続してきた伝統を引き継ぐことにあります。そのおかげもあり毎年この活動を通じて「広報紙コンクール」において受賞をしています。年間にたくさんの方の協力がありますが大変多くの皆さんから温かい協力ももらいながら楽しく、面白く活動をしています。これからも皆さん協力お願いします。



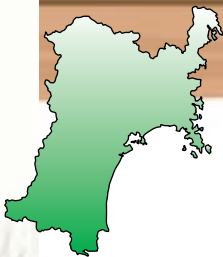
## 東松島市

### 盛り上がるPTA活動!

通信員 熱海 光太郎



東松島市では、ほとんどの活動が自粛を余儀なくされてきた3年間を経て、各校単Pで、各種研修会、交流会などの行事が通常通りに行われるようになりました。  
 6月には、東松島市PTA連合会として、市全体でのバレーボール大会を開催し、白熱した試合に、熱い応援、ギャラリからの声援も飛び交い、非常に盛り上がった大会になりました。  
 来年度開催予定の宮城県PTA研究大会「東松島大会」に向けて、各校PTA間の交流も生まれ、大会成功に向けた気運が高まっています。



# PTA

## 富谷黒川地区

50年の想いに  
感謝をこめて

通信員 早坂 基

大和町立吉岡小学校PTAでは、令和5年3月4日(土)に、老朽化に伴い改築される校舎に感謝のメッセージを届ける地域を巻き込んだ「言葉の贈り物大作戦」イベントを開催しました。大変寒い中でしたが、地域の子どもからご高齢の方まで、約780名の方々に来場いただき、解体前の校舎の壁にありつただけの感謝のメッセージを書いてもらいました。本当に地域に愛された素晴らしい学校だったと改めて実感しました。

校舎さん、50年という長い間、子どもたちと地域を育ててくれてありがとう。そしてお疲れ様でした…。



加美町立鳴峰中学校開校式

## 加美郡

### 開校「加美町立鳴峰中学校」

通信員 伊藤 望

令和5年4月6日、加美町立鳴峰中学校の開校式が行われました。小野田中学校と宮崎中学校が統合され、全校生徒216人での船出です。開校宣言の後、校旗授与が行われ、小野寺校長先生から「県下に誇れる鳴峰中学校を築き上げていきましょう。」とあいさつをいただきました。

代表生徒からは「一人ひとりが鳴峰中学校の生徒としての自覚を持って、互いに助け合いながら、魅力ある学校を目指していきたい。」という誓いの言葉がありました。

新しい歴史が刻まれていく中学校を、これからも見守っていきたいと思えます。

## 宮城地区

ベルマーク活動

通信員 鈴木 幸恵

利府町立しらかし台小学校では、利府町(小・中・高)9校の中で唯一ベルマーク活動を行っています。コロナ禍の中でも収集は行っていました。が、仕分け作業が思うようにできない時期がありました。

昨年度感染対策をした上で少しずつ作業をしましたが、3000円でした。集まったベルマークを全て仕分けできない中で金額でありませんが、物価高騰の今の時代とても貴重と考えますので、子どもたちのために大切に使用します。今年度は、昨年からのベルマーク全て仕分けをします。

### 働き方改革

革があるように、PTAにおいても活動内容を見直す時期にきていると考えます。今後のベルマーク活動は保護者の皆様にアンケートを採り、続けていくかどうか考えていきたいと思えます。





# お知らせ

<http://www.miyagi-pta.gr.jp/>  
☎022-295-9581・9590

## 第71回日本PTA全国研究大会 広島大会に参加して

第71回日本PTA全国研究大会広島大会が「変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！」～見つけ考え かわろうや ぶち楽しいで!!～広島から全国へのスローガンのもと、平和を尊ぶ広島の地で8月25日、26日に開催されました。

1日目の分科会は、広島県内8会場に分かれ、私が参加した第4分科会の人権教育では、家庭での虐待は、子どもたちが期待以下だと虐待する傾向が多いため、子どもたちの「家庭内の居場所づくり」がとても大切であることを学んできました。

2日目の全体会の記念講演では、講師に黒川伊保子氏をお迎えし、『心のトリセツ』～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学～と題してご講演いただきました。

講演では、脳科学をもとに、「子どもたちの脳育て」について拝聴しました。人工知能の時代は容赦なく始まっており、がむしゃらに邁進して優秀な成果を出すのは、人工知能がやる時代で、これからの人間の仕事は「命題を探し出す」ことで発想力や対話力が重要な時代とのことです。

なぜならば、脳の使い方と脳が働く量は一人ひとり違い、最後は自分と向き合って微調整する必要があるとのこと。遊びから入った人の脳には、自分と対象を繋ぐ情報がたくさんあり、発想力や対話力、長期の戦略力が養われるそうです。

最後に子どもたちに「感性の翼」を与えるには、失敗をしないと脳センスが悪くなる。そして失敗を人のせいにならず、過去の失敗をくよくよ思い出さず、ましてや未来の失敗をぐずぐず言わないことが大切とのこと。

もし自分の子どもが失敗したら否定はせず、「私も〇〇してあげればよかったね」と共感とねぎらいが必要で、そうすることにより失敗を恐れず「逃げ出さない」「意欲ある」子どもに成長するそうです。

第71回日本PTA全国研究大会広島大会は、広島県PTA連合会皆様の温かく熱い思いを感じながら、自分としても親力が向上できたとても素晴らしい大会でした。

副会長 平吹 淳



環境に配慮した用紙・  
インクを使用しています。

PTAみやぎ第191号 令和5年11月30日発行 年間購読料150円  
発行所/宮城県PTA連合会・印刷/有限会社 南郷印刷

## 第73回宮城県PTA研究大会 東松島大会に向けて



第73回宮城県PTA研究大会  
東松島大会実行委員長 浅野 和久

「ひろげよう！家庭・がっこう・地域からまんてんの笑顔！つなごう未来へ！」を大会テーマに、東松島市で第73回宮城県PTA研究大会東松島大会が開催されます。

東松島市はブルーインパルスが翔る風光明媚な町です。空を舞う迫力満点の飛行ショーと、松島湾に面する自然美が形成されており、青い空に映える青い海が広がっています。ここで育つ子どもたちは、「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」による心を育む取組や地域と協働した体験学習・地域活動を通じて自己有用感を高め、ふるさと東松島に誇りと愛情をもち、志高く、協働して未来を切り拓く将来像を目指しています。

現代の子どもたちが直面する課題には、急速な進化に伴うデジタル技術の正しい理解と適切な活用的重要性、子どもたちが抱える心の健康問題等があります。情報の取捨選択やオンラインの安全な利用方法、感情や経験に共感し理解することが大切です。子どもの側にたち、学ぶ側からの視点で捉え直し、子どもたちが健やかに成長できる環境を整える必要があると考えます。

本大会で、家庭・学校・地域が連携し、「笑顔」あふれる未来を築くための新たな道しるべとなることを期待しています。

宮城県内から多くのPTA会員皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

## 編集後記

今年度も8ヶ月が経過しました。これまで各单位PTAにおいて主要行事（①運動会や体育祭②遠足や合宿・修学旅行③学芸会や文化祭）の三大大事は既に終了し、コロナ以前に戻しての開催が多かったかと思われます。

子どもたちも予定通り各行事が開催されたことは何よりも嬉しく、良い思い出となったことでしょう。今後も新型コロナウイルス感染症等と向き合いながらPTA活動に積極的に励んでいただきたいと思います。「全ては子どもたちのために」

調査広報委員長 月岡 正博